



〒892-0841
鹿兒島市照国町13-42
カトリック鹿兒島司教区
電話099 (226) 5100
振込口座 02030-2-8359
編集発行 教区広報部
1部60円年間千共1100円



「天から降ってきた生けるパン」をめぐる話

教区の皆さん、お元気でしようか。

今回はミサの中で頂くご聖体についてお話します。「ご聖体」と言うと、信者の皆さんは「キリストの体である」と信仰によって理解していますが、福音書が編集された頃(紀元100年頃)そのことについてどんな議論があったかについてお話します。

ヨハネ福音書は、紀元100年頃に編纂されたと言われます。聖霊降臨によって教会が誕生してから、60〜70年後ぐらいの頃です。使徒たちや聖パウロの宣教活動で教会が拡散して行きました。それは、ユダヤ民族を形成しているユダヤ教の人々や多神教を信奉しているヘレニズム(ギリシャ思想)文化圏の人々との対話を通しての福音宣教活動でした。

今回お話しするのは、ヨハネ福音書の第6章で描かれているものです。この章は、イエスが多くのの人々の空腹を満たしたパンの増加の奇跡のお話です。

このお話は、マタイ、マルコ、ルカの福音書にも収録されているものですが、とりわけヨハネは、このお話を秘跡としての聖体を提示するとともに、そこに込められた神の意図とそれに対する人間の側の応答、つ

まり信仰について考えさせる内容になっています。以下ポイントを挙げて説明します。

①パンを与える方こそ人々の統治者

パンの増加によって満腹した人々は、イエスを王にするために連れて行こうとします。しかし、イエスはこれを嫌い、山に退かれます。(ヨハネ6・14〜15参照)

司教の手紙

ミサのカテケージス③

鹿児島教区司教 中野 裕 明

照

パンはラテン語のパーニスからきていますが、生きるために不可欠な食料を与える人のことを「パパー(フランス語)と呼ぶようになりまし。ローマ教皇もパパーと呼ばれますが、中世期には霊的な意味と時に地上的な意味も含まれていたことも事実です。

このパンの増加の行われた頃、イスラエルにおいてイエスの人気は絶好調だったと言えます。なぜなら人々の飢えを解決する人こそ、民衆の統治者(王)になるべき方だからです。しかし、これは天の父のみ旨ではありませんでした。

②わたしは天から下ったパン
イエスは言います。

「あなたがたがわたしを捜しているのは、しるしを見たからではなく、パンを食べて満腹したからだ。朽ちる食べ物のためではなく、いつまでもなくなるらないで永遠の命に至る食べ物のために働きなさい」(ヨハネ6・26)

この挑発的なイエスの言葉に対して、ユダヤ人は問います。神のわざのしるし

ンでも実体はイエス自身であるという秘跡という新しい捉え方を提起しています。トリエント公会議(1545〜1565)は、そのことを実体変化(Transubstantiatio)と定義しました。それは丁度、私たちが頂いた贈り物をありがたく思うと同時に、その贈与者の心にも思いをはせ感謝を表すことと同じであります。

「このために、弟子たちの多くが離れ去り、もはやイエスと共に歩まなくなつた。」(ヨハネ6・60、66)のはある意味で、当然であると考えられます。ただ、私が主張したいのは次のことです。確かに私たちは信教の自由が保障されている今日、殉教者のように命を懸けて信仰を証しする機会に恵まれないかもしれませぬ。しかし、人生のなかで、不当な仕打ちや悪意のある攻撃に晒されたり、真実を貫くために多大な忍耐を強いられたりするとき、受難のイエスを想起し、自分の背負うべき十字架をイエスの十字架に合せて祈るのです。

「わたしは命のパンである。わたしのもとに来る者は決して飢えることがなく、わたしを信じる者は決して渴くことがない。」(同上6・35)

「あなた自身であなた自身を捜しているのは、しるしを見たからではなく、パンを食べて満腹したからだ。朽ちる食べ物のためではなく、いつまでもなくなるらないで永遠の命に至る食べ物のために働きなさい」(ヨハネ6・26)

③イエス自身の死と復活を通して現実化する聖体
「はつきり言っておく。人の肉を食べ、その血

を飲まなければ、あなたたちの内に命はない。わたしの肉を食べ、わたしの血を飲む者は、永遠の命を得、わたしはその人を終わりの日に復活させる。わたしの肉はまことの食べ物、わたしの血はまことの飲み物だからある。わたしの肉を食べ、わたしの血を飲む者は、いつもわたしの内におり、わたしもまたいつもその人の内にいる。生きておられる父がわたしをお遣わしになり、またわたしが父によって生きるように、わたしを食べる者もわたしによって生きる」(ヨハネ6・53〜57)

④「わたしたちの日ごとの糧を今日もお与えください」
主の祈りの後半の冒頭で、私たちは上記のように祈ります。ここで言う「日ごとの糧」とは何を指しているのでしょうか。

ある聖書の脚注では次の2カ所を解釈の参照として挙げています。
「はつきり言っておく。モーセが天からのパンをあのときの主日の集会祭儀」

「はつきり言っておく。人の肉を食べ、その血を飲まなければ、あなたたちの内に命はない。わたしの肉を食べ、わたしの血を飲む者は、永遠の命を得、わたしはその人を終わりの日に復活させる。わたしの肉はまことの食べ物、わたしの血はまことの飲み物だからある。わたしの肉を食べ、わたしの血を飲む者は、いつもわたしの内におり、わたしもまたいつもその人の内にいる。生きておられる父がわたしをお遣わしになり、またわたしが父によって生きるように、わたしを食べる者もわたしによって生きる」(ヨハネ6・53〜57)

10月8日(日)と「スポーツの日」の9日(月)の2日間、教区本部とカテドラル、そしてオンラインを使ったハイブリッド形式で全小教区から主任司祭と信徒代表が集い、教区の重大事項について検討する「教区評議会」が開催される。

小教区における集会祭儀の数の減少により、鹿児島司教区内の小教区において主日のミサが挙行できない状況が増えてきています。今後ますます主日のミサが確保できない傾向は強まっていくものと思われま。以上のような緊急事態に対応すべく、司祭評議会及びコンベンツス(教区内で働く全聖職者の会合)において、「司祭不在

のとき主日の集会祭儀の実施とその司式者(信徒・修道者)の養成に教区として取り組んでいくことを確認しました。

今回の教区評議会では、私たちの教区がこのような状況にあることをまず皆さんで認識し、主日の集会祭儀に関する本質的な部分(ミサとの違い・主日に集まることの意味・司式者養成の方針など)について理解を深めることを目指します。

司祭召命の促進
教区において主日にミサではなく集会祭儀が行われ

「はつきり言っておく。モーセが天からのパンをあのときの主日の集会祭儀の実施とその司式者(信徒・修道者)の養成に教区として取り組んでいくことを確認しました。

今回の教区評議会では、私たちの教区がこのような状況にあることをまず皆さんで認識し、主日の集会祭儀に関する本質的な部分(ミサとの違い・主日に集まることの意味・司式者養成の方針など)について理解を深めることを目指します。

司祭召命の促進
教区において主日にミサではなく集会祭儀が行われ

「はつきり言っておく。モーセが天からのパンをあのときの主日の集会祭儀の実施とその司式者(信徒・修道者)の養成に教区として取り組んでいくことを確認しました。

司祭召命の促進
教区において主日にミサではなく集会祭儀が行われ

「はつきり言っておく。モーセが天からのパンをあのときの主日の集会祭儀の実施とその司式者(信徒・修道者)の養成に教区として取り組んでいくことを確認しました。

今回の教区評議会では、私たちの教区がこのような状況にあることをまず皆さんで認識し、主日の集会祭儀に関する本質的な部分(ミサとの違い・主日に集まることの意味・司式者養成の方針など)について理解を深めることを目指します。

司祭召命の促進
教区において主日にミサではなく集会祭儀が行われ

「はつきり言っておく。モーセが天からのパンをあのときの主日の集会祭儀の実施とその司式者(信徒・修道者)の養成に教区として取り組んでいくことを確認しました。

マリアの生き方を目標に

カテドラル献堂記念日に泉神父が説教

鹿児島カテドラル・ザビエル記念聖堂の献堂を記念するミサが9月15日(金)夜にささげられた。

この日のミサは、同日の奄美宣教再開記念ミサのため不在だった中野裕明司教に代わって、総代理の泉浩二神父(玉里教会主任司



24回目の献堂記念日を迎えたカテドラル

祭りが主司式した。現在のカテドラルは、ザビエル渡来450年祭の記念事業として建てられたもので、ラゲ神父によって建てられた石造りの初代教会から数えて3代目となる。19時から始まったミサには、30人余の信者が参列し、永山幸弘神父、小隈憲士神父らとともに祈りをささげた。

ヨハネ福音書朗読後の説教で泉神父は、現カテドラル献堂の頃の教区の動きを、特に当時の糸永真一司教が設置した「ザビエルイヤー」(1998年8月15日〜1999年12月3日)のザビエル渡来450年祭の行事を中心に振り返った。その上で、献堂

の日は悲しみの聖母の記念日であることに注目した泉神父は、その生き方から「喜び、苦しみ、悲しみをいつもイエスとともにしたマリアのように、私たちも

今年の殉教祭について

川内教会からお知らせ

信仰を捨てなかつた咎で斬首刑に処せられ(1608年11月17日)殉教し、2008年11月24日、長崎市での列福式典で福者にあげられたレオ税所七右衛門朝の熱い信仰に倣う「福者



川内教会敷地にある記念碑

派遣された場所でもいつもイエスとマリアと一緒に生きることを目指そう。その上で聖ザビエルのように宣教への心を燃やしていこう」とメッセージを送った。

レオ七右衛門殉教祭」が今年11月12日(日)にある。開催場所は福者の殉教の地を管轄するカトリック川内教会(T・メニツヒ神父主任司祭)。

詳細についてはこれから検討されることになっていく。昨年までのコロナ禍での同殉教祭では川内小教区以外からの参列はできなかつたが、今年の殉教祭は制限が解かれ、誰もが参加できるようになった。川内教会では多くの人が参列し、福者の熱い信仰を感じて欲しいとしている。

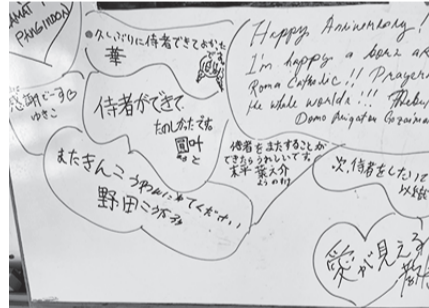
東京大司教区

森一弘名誉補佐司教帰天

鹿児島にも数回、講演や黙想指導で足を運んでくださった東京教区の森一弘名

侍者ができることは子どもたちの喜び

今年のキリスト教伝来記念祭(8月15日)のミサで



は、4人の子どもたちが侍者を務めてくれた。子どもたちがミサで活躍する姿



は、教会に未来を感じさせてくれるし、参列者たちの心も温かくなる。ミサ後には茶話会が開かれたが、教会ホールのメッセージボードにはこの日の喜びが書かれてあった。その中には「侍者ができて楽しかった」「侍者を果たすことができた嬉しさです」「次、侍者になりたいです」など。侍者ができたことの喜びや侍者として務めたいなどの希望にほのぼのとさせられた。他にもザビエル様に向けてと思われる「また錦江湾に来てください」の子どもらしい書き込みも見られた。

後には、真生会館で黙想指導など行われていたという。森司教の葬儀は9月5日(火)、東京カテドラル聖マリア大聖堂で執り行われた。

お越しください!

祈りとグレゴリアンの集い

月に2回、鴨池教会でグレゴリアンの練習をしています。

グレゴリアンはカトリック教会が1000年にわたって伝えてきた教会音楽の中で最も大事にされ(典礼

は、教会に未来を感じさせてくれるし、参列者たちの心も温かくなる。ミサ後には茶話会が開かれたが、教会ホールのメッセージボードにはこの日の喜びが書かれてあった。その中には「侍者ができて楽しかった」「侍者を果たすことができた嬉しさです」「次、侍者になりたいです」など。侍者ができたことの喜びや侍者として務めたいなどの希望にほのぼのとさせられた。他にもザビエル様に向けてと思われる「また錦江湾に来てください」の子どもらしい書き込みも見られた。

イグナチオの霊操④

紫原教会主任司祭 貴島丈弥



ロヨラのイグナチオ

イグナチオの回心は一五二二年の負傷と同じ年になされたとされています。

ちなみに、二〇二二年は回心から五〇〇周年記念ということで、ローマのイエズス会関係の教会や学校で一年間お祝いされていました。向こうにあるザビエル教会でもお祝いがあり、日本人会共同体も呼ばれ、ミサを共に捧げました。

この頃からイグナチオは「自伝」(Au)の中で自分自身を「巡礼者」として三人称で呼び始め、エルサレムへの巡礼の道歩み始めロヨラから出発します(Au二五)。

この頃、三月の終わり頃にモンセラットに着いたとされています。イグナチオの回心も一回で完全になされたわけではありません。モンセラットでイグナチオは古い自分が身につけていた騎士の装備を脱ぎ捨て、神と共に神の道を歩む、「キリストの鎧」を着る「新しい自分へと変えられていく、変えていく」決心をします(Au一七)。

そして、三月二十五日に、彼にとつて最も重要な体験することになる町、マンレサに辿り着きます。数日の滞在の予定が十一カ月の滞在期間になりました。ここでイグナチオは霊的に深い神秘的体験をし、本当の回心を果たします。

イグナチオは霊的慰めと荒み、霊的疑念を繰り返して体験し、良い霊と悪い霊からの影響の霊的識別をしていくようになります(Au九〜二六、霊操三三〜三三六)。そして、最も深い神秘的体験をします。

聖三位一体との深い親密な交わり、創造の時の光のようなものからの最も深い喜び、ユウカリストの内的な視覚による神秘的ヴィジョン、内なる目によるキリストの人間性のヴィジョン、知的開眼による照らしにより、超自然的慰め、喜びを体験します(Au二七〜三十)。ここに霊操の三つのステージ・浄め、照らし、一致のステージを見ることが出来ます。

イグナチオはこの約十カ月の間にこれらの霊的体験をし、「霊操」をまとめ上げることになります。

回心とは人間性全体に関することで、理解力、判断力、想像力、未来を見通す力を養い育て、神へと向かうため変えられていく道でもあります。イグナチオは一五二三年の二月にマンレサを出発しバルセロナからエルサレムへと向かう巡礼の旅を続けていきます。

Autobiografia (自伝) S. Ignazio di Loyola.

祈りとグレゴリアンの集い

2023年10月15日(日) 13時

- 祈り
- ウクライナ (世界) 平和のため
- 難民のため
- すべての人の命をまもるため
- 家庭のため

グレゴリアン

・13曲 (ミサ曲を含む)

演奏

Coro Della Cappella Kagoshima (教会内外同好者)

指揮: 桃菌淳一郎 (終身助祭)

会場: 鹿児島カテドラル・ザビエル教会主聖堂

福岡カトリック神学院閉鎖報告

長崎教会管区司教団

この度は長崎教会管区における大神学生の司祭養成のことで報告しなければなりません。ご存知の通り長崎教会管区には、管区立の二つの養成機関があります。一つは大神学校として「養成の場」福岡カトリック神学院」と、もう一つは、その神学院に入る前の養成課程である「福岡コレジオ」です。

実はそのどちらの養成機関とも、基本的に共同生活の中で、神学生数の減少により、共同体としての養成が難しくなりました。

そこで、私たち長崎教会管区司教団は、まず、「福岡カトリック神学院」について、長崎教会管区各教区の司祭団のご意見を伺い、管区司教団での話し合いの後、2023年度第1回臨時司教総会において審議（7月19日の会議にて）して頂き、下記のようにになりました。下記のことを報告申し上げます。

聖マリア学園学園研修会に参加して

認定こども園白百合幼稚園 尾野 朋子

今年度初めての聖マリア学園の研修会を指宿市の認定こども園白百合幼稚園で開催（8月23日）しました。

保育をしながら研修会に参加するのは、なかなか難しいため、今回は現地で参加する先生方と、オンラインで参加する先生方がいらつしやり、総勢40人以上の先生方が参加してくださいました。

研修テーマは、「カトリック幼稚園で働く皆さんに今伝えたいこと」として、郡山名誉司教様のお話を聞きました。司教様の言葉一つひとつに、神様の愛を感じ、幼稚園で共に過ごす子ども達や職員同士も互いに愛を持ってかわるることの大切さを再確認できる時間となりました。

カトリック園で働く私たちが、子どもと共に祈ります。子ども達の祈りには、短い言葉であっても深い意味があります。素直に言葉にして表す子ども達の祈りを大切にしながら、私たち保育者も初心を忘れず、神様の愛を感じながら、子ども達に寄り添っていきたいと思います。

最後になりましたが、今回研修会の会場として指宿教会の聖堂をお借りしました。先生方をお迎えする準備を信者さんにもお手伝いして頂きました。ありがとうございました。



鹿児島市出身
古賀正典神父帰天
叙階当時

来年（2024年）4月から「日本カトリック神学院」での養成を受けることとなる。今後の大神学生（2025年以降の入学希望者）の養成も同じである。

(3) それゆえ、「福岡カトリック神学院」は2023年度をもって閉校となる。以上です。

長崎教会管区立「福岡コレジオ」の今後について課題も残っています。将来の方向性としては、管区立としてではなく、各教区の養成方針に従い、それぞれの教区が主体となって養成を行うことを検討しています。が、開始時期等につきましては決定次第報告致します。

先記の決定により、大きな変更を断せざるを得ませんでした。これまでと同じように、またこれまでに以上に、神学生や志願者誕生のための皆様方のお祈りと具体的な声掛けなどよろしくお願い申し上げます。

2023年7月20日
長崎教会管区司教団

9月10日（日）早朝、東京大司教区のパウロ・テレジオ古賀正典神父が入所先の「ペトロの家」の居室で亡くなった。64歳だった。

古賀正典神父は鹿児島市の出身。1978年に閩町教会で受洗、1990年3月に東京大司教区司祭として叙階された。叙階後は、洗足教会や八王子教会、西千葉教会などで働いたほか、中央協議会でも法人事務部長や秘書室長として働いた。2007年からは10年余り東京教区の会計担当として尽力していたが、体調を崩し2017年からペトロの家で静養していた。

教区は違った古賀神父だが鹿児島教区の青年たちに黙想指導をするなど交流を持ってきていた。古賀神父の葬儀ミサと告別式は、9月19日（火）、東京カテドラル聖マリア大聖堂で執り行われた。

「五」には弱った状態や不十分、また「二」には仲間、奉仕の交わりという意味があります。ということとは「五」によって集まった群衆は弱った状態にあり、「二」によって仲間として相互に助け合わなければならぬ状態でもあったことが象徴されていると考えられます。

次にパンの屑を集めると

《康由神父の聖書教室》66

五つのパンと二匹の魚

以前（2016年5月）、四つの福音書すべてに載せられている唯一の話として「五千人に食べ物を与える」と題された供食物語についてお話ししました（マタイ14・13〜21、マルコ6・30〜44、ルカ9・10〜17、ヨハネ6・1〜14）。

今回は数字に着目してこの物語を考えてみましょう（2016年8月号「黙示文学」を参照）。

すべての福音書には共通して「五つのパンと二匹の魚」といった言葉が見られます。



十二の籠が一杯になったとあります。「十二」とは神による統治を意味します。これにより一人ひとり弱い人間であっても相互の奉仕を心掛けることによって、

この地上に神の義が満ちるといふことも織り込まれていると考えられます。

また「残ったパンの屑」と訳されていますが、「残った」と訳された言葉は原語では「溢れ出る」、有り余る」という意味があります（マタイ14・20、ルカ9・17、ヨハネ6・13）。ということは神の義はその一端でも現われれば地上に満ち溢れるということも含まれていると考えられます。

最後に五千人が満腹したことも共通しています。

これは十×十×五十の結果であると思われ、十は神や人間



の言葉による証、「五十」とは「自由」、「贖い」、そして「霊の力」を意味します。ということとはイエス様は真の神、真の人であり、霊の力によって人間を何らかの束縛から解放し、贖われるということの象徴であると考えられます。またこのことを人間が言葉をもって後の時代に語り継いでいかなければならないということも併せて持っていると考えられます。

視点を変えると馴染んだ話も面白く読み解けるものです。

会と催し 10月

- 1日（日）年間第26主日
 - 3日（火）始良教会堅信式
 - 4日（水）みことばを祈る集い・10時・ザビエル教会
 - 4日（水）サンタマリア神父叙階記念（1970年）
 - 5日（木）朴利奎神父霊名（聖フランシスコ）
 - 5日（木）アッシュヤー神父命日（2021年）
 - 8日（日）デクルス神父命日（1980年）
 - 8日（日）年間第27主日
 - 8日（日）▼教区評議会・カテドラル及び教区本部・15時（9日まで）
 - 10日（火）大松正弘神父命日（2018年）
 - 10日（火）福岡英雄神父叙階記念（1989年）
 - 11日（水）中野アカデミー・教区本部・14時
 - 14日（土）聖書の分かち合い・教区本部・14時
 - 15日（日）年間第28主日
 - 18日（水）▼祈りとグレゴリアンの集い・ザビエル教会・13時
 - 18日（水）聖ルカ福音記者
 - 18日（水）内野洋平神父霊名
 - 18日（水）池上利男助祭霊名
 - 21日（土）長崎教会管区会議・鹿児島市・19日まで
 - 21日（土）西田正神父命日（2021年）
 - 22日（日）年間第29主日
 - 22日（日）▼世界宣教の日（献金）
 - 22日（日）「世界宣教の日」は教皇庁信仰弘布事業が全世界に向かつて毎年10月に呼びかける「世界宣教月間」の頂点です。その目的は、まだキリストを知らない多くの人に福音の心を生きていく、洗礼を受けたすべての人に宣教の心を生きていく、世界の福音化のために、霊的物的援助をはじめ、宣教師たちの宣教協働を各国の教会間で促進することです。この日、福音化に共通する責任を意識し、普遍性と世界の連帯を祝ったキリスト者からの献金は、各国からローマ教皇庁・福音宣教省に集められ、日本を含む世界中の宣教地に援助金として送られます。
 - 24日（火）カトリック教師の会・教区本部・15時
 - 24日（火）オリブの会・教区本部・14時
 - 28日（土）大水如安神父命日（1994年）
 - 28日（土）聖シモン・聖ユダ使徒
 - 29日（日）聖書の分かち合い・教区本部・14時
 - 29日（日）年間第30主日
 - 31日（火）ミタマヤ神父命日（1984年）
 - 31日（火）▼司教日程▼1日始良教会、8〜9教区評議会、10日聖マリア学園、11日中野アカデミー、15日出水教会、18〜19日長崎教会管区会議（鹿児島市）、22日志布志教会、31日大光明学園
- 祈りの意向
【祈祷の使徒会】
教皇 シノドス
日本の教会 福音宣教

フィリピンで気づいたこと・学んだこと

鹿児島教区神学生

久山 元太郎



最初に少し自己紹介させて頂きます。

私は2018年の夏頃、鹿児島教区の神学生として受け入れていただきました。2018年度の前半と今年度の4月からの後半は鹿児島に滞在することがないので、私のことをご存じない方が多いかと存じます。

フィリピンの教会

フィリピンでは周りの方々、特に神学生や神学校のスタッフの方々、また神父様方に沢山の機会に親切にしていただきました。このすべての方の支えなしに無事に神学校を卒業することはできませんでした。

私の出身は神奈川県茅ヶ崎市です。2018年9月28日から4年半の間、フィリピン・マニラのサン・カルロス大神学校で神学を勉強し、2023年4月3日に鹿児島教区に戻って参りました。現在司牧実習中です。

神学校では神学の色々な科目を学びましたが、同時に、神学生としての共同生活を通して自分について気づかされることもありました。私は感情のコントロール面に未成熟さがあり、折々にそれが表に出てしまっていました。私が負の感情をぶつけてしまった相手の方々には申し訳ないことをしたと今も思っています。けれども、神様は失敗・悪からも良いものを生んでくださいます。度々自分の姿を自覚させられ、自分の負の感情のコントロールの必要性を感じることを通して、加えてカウンセラーの方の助けもお借りすること

で、それを乗り越える方向へと導かれました。フィリピンでの4年半の中でそれが一番大きな恵みだったと感じています。

フィリピンでは周りの方々、特に神学生や神学校のスタッフの方々、また神父様方に沢山の機会に親切にしていただきました。このすべての方の支えなしに無事に神学校を卒業することはできませんでした。

フィリピンは「カトリック先進国」であるフィリピンは典例が日本に比べて荘厳でした。小教区の主日のミサでは、毎回香を使った荘厳ミサが行われていました。侍者は男の子、青年男子のみでしていましたが、彼らは洗練された動きで侍者として奉仕していました。

クリスマス前には9日間の早朝ミサ、シンバン・ガビ (Simbang Gabi) があり、大勢の信者さんがミサに与っていました。9日間全部ミサに与ると願い事が聞き入れられる、と誰からか聞きました。

シンバン・ガビのミサが終わると、その時期だけ教会の外でプト・ブンボンというクリスマススイーツやビビンカというライスケーキが売られます。フィリピンの信者さんは信仰の中にこんな楽しみも混ぜているのだな、と思ったものです。

カトリックの国なので聖週間の聖木曜日から聖土曜

を作り、町の中を巡り歩きました。

男性は復活されたキリストの像の行列に加わり、女性には悲しみの聖母像の行列に加わります。最後にその二つの行列は決められた場所対面します。

私が参加した時はマンドラヨン (Mandaluyong) 市

のイエスの聖心教会 (Sacred Heart of Jesus parish) 前での対面でした。

そこでは予め設置された構造物の上から天使を扮する小さな女の子が降りてきてマリア様の悲しみの黒のベールを取り除きました。その直後に火花が上ががり、お祝いの雰囲気になりました。

人口の8割がカトリックというフィリピンでビクタ・イグレシアやサルボンの様な「体を使った」信仰教育の価値について考えさせられています。



+KABAYAN SEKSIYON+

Ang Pagpapahayag ng Salita at ang Ministeryo ng Tagabasa

Binigyan diin ng pumanaw na + Papa Benedicto XVI ang pangangailangan sa sapat na paghubog sa mga tagabasa sa pagdiriwang ng liturhiya. Imi numungkahi niya na ang mga pinagkatiwalaan ng tungkuling ito, kahit na ang mga hindi naitalaga sa ministeryo ng Tagabasa, ay nangangailangang maging tunay na nararapat at masusing sinanay.

Ang pagsasanay na ito ay dapat na sa Biblia at sa liturhiya, gayundin sa mga bagay na teknolohiko (VD 58).

Ang Pangkalahatang Gabay sa Leksyonaryo (OLM) ay ipinaliwanag ang nararapat na paghuhubog sa mga Tagabasa: "Ang layunin ng kanilang paghuhubog sa Biblia ay upang mabigyan ang mga tagabasa ng kakayahang unawain ang mga binabasa ayon sa konteksto nito at upang maintindihan ayon sa Liwanag ng pananampalataya ang tunay na kahulugan ng ipinapahayag na mensahe.

Ang paghuhubog sa liturhiya ay kailangang magbigay sa mga tagabasa ng kaalaman tungkol sa kahulugan at estruktura ng liturhiya ng salita at sa kahalagahan ng ugnayan nito sa liturhiya ng Eukaristiya.

Ang paghahandang teknolohiko ay nararapat magbigay sa tagabasa ng sapat na kasanayan sa arte ng pagbabasa sa harap ng maraming tao, gumagamit man ng mikropono o hindi" (OLM 55)

Katesismo Tungkol sa Liturhiya

(Fr. Dino Oroflo)



要理

天使について
ては旧約・新約聖書共に
いろいろ書かれて
います

存在であると言えます。
これと同じく神様は人間には見えない
天上で人間よりもさらに優れた存在を
創ったとは考えられないでしょうか。
天使とは想像の産物でもなければ神

えています。
それが天使たちにとつての
最上の幸せだからです。

天使の存在について

が、本当に存在するかどうか
疑わしく思ったことはありま
せんか。でもそれは人間が見
える世界から考えているから
なのかも知れません。

同じよ
うに神様
は人間に
もご自分

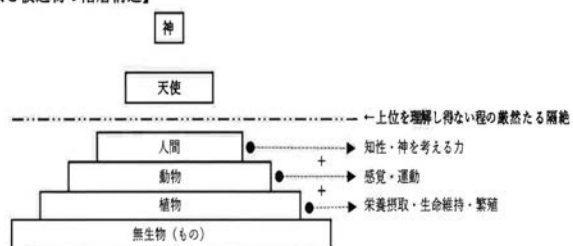
この地上で神様は各種の動植物を創
り、人間はそれらを支配することを委
ねられました (創世記1・26参照)。

の霊が擬人化したものでもありませ
ん。教会はその初めからずっとキリス
ト信者一人ひとりを守ってくれる目に
見えない守護の天使の存在を信じてき
たのです。

そして分類することができません。とい
うことはこの地上で人間は最も優れた

の御許でご自
分の子供とし
て、ご自分の
永遠の幸福に
与ってもらうために人間をお創りに
なつたのです。

【神様と被造物の階層構造】



聖書愛読運動

【旧約聖書 教訓・預言
書コース完走者】

武野美千代さん、網屋澄子さん、アドライン・ンウオドさん (以上、鴨池教会)、順 秀子さん、浜田スミ子さん、大川和美さん、東郷 久さん (以上、徳之島教会)、直 泰江さん (谷山教会)、春田和子さん (玉里教会)、木下秀道さん (ザビエル教会)、中橋美津子さん、沖 弘子さん (以上、出水教会)、永田京子修道女 (純心聖母会鹿児島修道院)、中野和明さん (聖心教会)、大山みどりさん (加世田教会)

【9月15日現在】

シノドスに関してローマでの世界代表司教会議第16回通常総会の第1会期は、10月4日(水)の開会ミサから10月29日(日)の閉会ミサまでです。お祈りください。